

## P31a 「なんてん」望遠鏡 2 : 最初の観測結果

福井康雄、小川英夫、水野亮、大西利和、米倉覚則、尾林彩乃、河村晶子、肖可成、立原研悟、山口伸行、加藤滋郎、早川貴敬、原 淳、水野範和 (名大・理)

チリ・ラスカンパナス天文台に設置した名古屋大学「なんてん」望遠鏡は、1996年10月より本観測を開始した。初期の観測は、大小マゼラン雲を始めとする南天の星形成領域の分子ガス分布の概要を明らかにすることにポイントがある。これまでに、 $^{13}\text{CO}$ 分子の  $J=1-0$  遷移により主に8分角グリッド(ビーム幅3分角)で銀河系内の星形成領域として以下の各分子雲を観測し、約400平方度をカバーした。

- 1) おおかみ座
- 2) 南十字座
- 3) カメレオン座
- 4) 帆座

このうちカメレオン座では、エックス線観測によって、主な分子雲から遠く離れた多くの孤立したTタウリ星の存在が知られており、その起源について論議を呼んできた。我々の観測結果は、孤立したTタウリ星の近傍に小質量分子雲が相当数存在することを示しており、これら小分子雲が孤立星の起源を説明しうることを示唆する。講演では、 $^{12}\text{CO}$ の  $J=1-0$  遷移による観測結果も含めて「なんてん」の見た分子ガス分布の最新結果を速報する。